

湘南アルプス

## 湘南アルプス

横浜にもアルプスがある。此処ではアルプスも立の意味です。“何しろ家から直ぐ歩いて行けるんだから難有い。山は低く岩もないが誠に気持のよい散歩場です。横浜へ来て山にも出かけないが歩いて見度いと思ふと僕はいつも此處に出かけるので良い散歩場です。場所は円海山から鎌倉の天國を通つて半僧坊に来る間を云ふのですが僕は円海山のあたりの気持がとても好きです。植林も相當大きいなつてゐると重々しく頭を垂れてゐる竹早此方に来て何回歩いたことだらう。そして右からも左からも登つたいや歩いて見たが、屏風ヶ浦から入つて行くのが最も気持がよい。円海山は峯と言つてお巣をやる寺があります。最近は此處迄



# 報會

号九第年五第

九十九  
通卷第三十九号

バスが来てゐます。此の円海山から峯続きで天園迄は杉と松の林が大分茂つて居つて、娘々高い奴からは金沢八景が眺められる。天園は廢の様になつて居つて鎌倉からのヒクニツクの場所で一目に鎌倉の浜を見下すのです。二三里内海山から天園に迴らうとして大船の方へ下りちやつたが道がわかり難いと云ふよりも何處でもよい歩けばいいんだと云ふ気持なものだか此娘ト来た時に森の中で目白をとる鳥屋さんと逢つて一緒に来たので眞直ぐに半僧坊に出たが、その次に行つた時に本見事まちがへちゃつて此娘が近ちやんが好きさうな怪物が沢山あります。天狗の呂評會とでも申ませうか至る娘ト天狗さんが並んで居られる。どれかと近ちやんとどつくませて見度様な気がした。

權威ある?針葉樹會報を此の如きつまらぬヒクニツクの様なもので汚す恐れ大分にあることをお詫びしますがなか／＼山には出かけられないと云ふ事と幽恋々として山の音を憚れる心のやり場

第五年 第九号

充に角歩くと云ふだけではそれは多分に健康法としてゐる気持を傳へ様との企てがあることを御許願ひ度い。

部室から

(三角)

十何年振りとか云ふ豪雨の為、今夏の部の動きは別大目ぼしいものもありませんが、一通り御報告いたします。

① 錆ノ木より鉄へ 北アルプス方面

中島幸、小橋謙三、宮川雄

二郎、七月四日新宿駅へ夜行)、最初の豫定では、平ノ小舎から内藏助平大入り、それから鉄澤大行く筈であつたが、内藏助へ入る前、御前谷の幕営地が既に天候悪化の徵あり、為に再び平大引きかへしる。五色ヶ原の小舎に至る。九日夕刻より十二日まで豪雨の為滞在。十三日晴天に向ひつゝあつたので立山を越へ、飼沢に至り鉄沢生活のパーティ大加る。

② 後立山越走

小谷部全助、塚本駿、佐々木誠、七月六日晴、大町一ノ俣一猿倉一村営小舎一白馬

館、七月七日晴、白馬頂上往復、小舎一鑑岳一唐松小舎、七月八日晴、小舎一五龍岳一八峰キレット一鹿島槍ト冷池小舎、七月九日曇后雨、小舎一爺ヶ岳一種池一針ノ木峠一平ノ小舎、

七月十日、十一日、十二日豪雨の為滞在。

七月十三日曇、平一ザラ峠一立山一鉄沢小舎、

七月七日新宿駅、伊折よりバンバン島に入つたが、

③ 池谷溯行(中止) 堀岡清、鷺野雄一、  
鉄沢生活のパーティに加はる  
七月七日新宿駅、伊折よりバンバン島に入つたが、既に天氣悪化し、十二日まで豪雨の為、とぢこめられた。遂に池谷溯行は中止するの止むなきに至り、千垣一藤橋一彌陀ヶ原、大て七月十六日鉄沢に至り、鉄沢生活に加はる。

④ 鉄澤生活  
望月達夫、小林重吉、鷺崎雄四郎、  
中島幸、宮川雄二郎、小谷部全助、塚本駿、佐々木誠、堀岡清、鷺野雄一、以上到着順)

七月十三日晴始める、別山乗越小舎に九日夜未降り込められし、望月、小林、鷺崎、午前中鉄澤大来る。テント未着の為當分小舎泊りとする。

第五年 第九号

△劍岳往復 望月、小林、鷺崎、  
劍沢小舎より普通のルートにて登頂。  
午後三時半、中島、宮川の両名五色ヶ原より来る。  
平小舎より来る。  
七月十四日晴 △八峰行 小谷部 望月、小林、鷺崎、  
△八峰行 小谷部 望月、小林、鷺崎、  
小舎一長次郎谷一五六峯間一六峯一七峯一八峯  
一八峯より長次郎谷へ下る一小舎、  
△劍岳へ 中島、宮川、佐々木、  
普通のルートにて登る。小舎に帰つてから下山。  
△劍岳へ 中島、宮川、佐々木、  
普通のルートにて登る。小舎に帰つてから下山。  
未る。三名テントに移る。  
七月十五日曇時々晴 △源次郎尾根、小谷部、  
中島、  
長次郎谷を登り、かなり上部の雪渓より  
テント、他の物貨来る。今夜より皆テントに  
移る。  
七月十六日雨、午後四時半、池谷湖行を放棄せる。  
堀岡、鷺野の両名鏡石小舎より来る。  
七月十七日晴 △八峰行、堀岡、小林、鷺野、

二、三峯間のコルに取附き、それより八峰を経て劍頂上に至る。  
△早月尾根上部、望月、鷺崎、佐々木、  
塙本、蟹のハサミの一つ西峯まで至る。  
七月十八日、十九日、天氣不良、滞在。  
七月二十日、不順な天候をうらみつゝ、一同下山。  
④槍より燕へ、森脇芳之、  
七月十七日出発、七月二十五日帰京、雨にたへられて慘々だつた。  
⑤燕より槍へ、原鉄三郎、  
七月十九日出発、七月二十四日帰京  
○2、南アルプス、中央アルプス、  
○白峯三山、赤石、悪沢岳、森川眞三郎、榎本直司、  
七月十二日曇後雨、甲府一大曾利一夜又神崎一鮎  
差、  
七月十三日雨、滞在  
七月十四日晴時々霧、鮎差一吊尾根一北岳一北岳  
小舎、  
七月十五日晴後曇、小舎一間ノ岳一農鳥小舎一農

第五年  
針葉樹會報

鳥岳 | 小舍  
七月十六日雨霧 滯在  
三伏小舍  
七月十八日曇後雨、小舍 | 間ノ岳 | 熊ノ平 | 豹見岳 |  
荒川小舍  
七月十九日曇後晴 小舍 | 大聖寺平 | 赤石岳 | 小  
倉 | 荒川前岳 | 惠次岳 | 二軒小舍  
七月二十日晴 小舍 | 轉付峠 | 新倉 | 瀬次 | 甲府  
④甲斐駒より尾白渓谷、遠藤竹雄  
七月二十日曇時々雨 菲崎 | 筏 | 平 | 屏風小舍 |  
七大舍  
七月二十一日曇時々雨 小舍 | 駒ヶ岳頂上 | 摩利  
支天 | 地獄谷 | 七丈小舍 | 屏風小舍 | 尾白渓谷を  
下る | 财水 | 瀧 | 台ヶ原 | 菲崎  
④鳳凰山  
齋藤正治、他一名  
七月二十一日曇、菲崎 | 祖母石 | 烏居峠 | 青木鉢泉  
| 北御室  
呂川 | 廣河原小舍  
七月二十二日雨、滞在  
七月二十三日雨後曇 小舍 | 野呂川徒歩 | 小舍、  
芦安へ下る道わからず。  
小舍 | 野呂川徒歩 | 小舍、

七月二十四日雨、小舍 | 野呂川徒歩 | 須場尾根 |  
五葉尾根小舍  
七月二十五日曇霧 小舍 | 夜叉神崎分歧点 | 大曾  
利 | 菲崎  
④木曾駒連峯 小谷助全助  
八月三十日晴 須原 | ケサ沢小舍 | 滑川合流点  
九月一日雨 野營 | 二俣 | ケサ沢をつめ登り口見  
つからず引返へす | ケサ沢小舍  
九月二日曇後雨 小舍 | 滑川小舍 | 北沢三角点 |  
南駒頂上 | スリ鉢小舍  
九月三日雨後晴 滞在  
宮田小舍 | 駒頂上 | 不曾小舍  
九月五日曇 小舍 | 五合目小舍 | 上松  
④樺太突阻山 杉浦亮  
八月三日晴時々霧 近幌駅 | 防火線 | 林務署監視  
所 | 頂上 | 最南のヒ | ク | 防火線 | 近幌  
④東北朝日連峯 斎藤正治、他三名  
八月十七日晴 新堀田 | 金丸駅 | 德網 | 針生平小

八月十八日晴後霧 小舍一角ナラ沢一平岩山一大朝日岳一 大朝日神社小舍  
 八月十九日晴時々霧 小舍一中岳一西朝日岳一籠門山一南寒江山一狐穴一以東岳一大鳥池一工事々務所  
 鶴岡一新発田  
 八月二十日曇 事務所一冷水沢一茶畠山一荒沢一  
 ○奥日光 高原龍雄、他一名  
 へ七月十四日一七月十八日) 日光戦場ケ原より金精峠を越え、丸沼より鍛因に出て沼田より帰京  
 ○奥日光より尾瀬 原鉄三郎  
 登山一根羽沢一三平峠一尾瀬一燃岳へ一宵ビ菅沼まで戻り沼田より帰れる。  
 ○雲取山より三峰へ 岩崎利一、他一名  
 へ七月二十日一七月二十一日) 氷川一七ツ石一雲取一白岩一三峯へ  
 ○雲取山より将監峠へ 岩崎利一、他一名  
 へ八月二十九日一八月三十日) 氷川一雲取一飛龍山一將監峠一柳沢峠一蘿山

以上が夏山記録の殆ど全部です。

(八月)

### 國立の部室

昭和七年の僕たちより古い人本、まず人國立の街を御存じないと言はねばならぬ。波氏等の胸の内には、その輝やかしき學生時代の思出として一つ橋のバラック校舎が甘い味ひを止めてゐるにちがひない。ところが一橋の現況はどうなものだらう。籠城事件で活躍した角の交番は如何にも以前の通りだが、あの門衛小屋と消費組合とが潰されてしまつたのだ。日章旗と英國旗とが張りめぐらされ、見るからに景気はいゝが、ガソリン嬢と交番氏とが語り合つてゐる所を見れば商賣御繁忙としまつたのだ。如水會館寄りには一橋講堂が出来はせられまい。如水會館寄りには一橋講堂が出来上つてゐる。見たゞけで標を正したい程謹嚴な殿様が建つのださうだ。がタンゴトンと基礎杭打が全くおしまひだ。  
 この間から始つてゐる。一つ橋ももうおしまひだ。  
 ところで新興國立大學都市と銘うつたあの谷保とこころで新興國立大學都市と銘うつたあの谷保はどうだらう。僕はつひ二三日前に懐古の情堪え難きまゝ、に國立まで行つて見た。駅前の家鳴、舟頂櫓、五位サギetc.の襯は元のまゝだ。一つ橋大

通りと称する五十メートル幅もあらうあの通のペン  
草も枯草も昔のまゝだ。富士見通りを何処まで歩  
いたとて正面に富士山が見える事も發りはない。  
たもが富士さんに勧かれては大変だが。まず人  
のも東の間、僕らの建てた部室が無くなつちやつ  
これで國立も変化なしに済んでゐるなと安心した  
た。どこにも見えないどころではない。  
あの雜木林に踏み入る事が出来ないのだ。籠が張  
悪い土方人足が氣の弱い僕を睨みつけた。風体の  
りめぐらされ、汚い掘立小屋が立ち並び、枝の  
悪くが、それを感つてはゐられない。手にもまつは  
りして土手の方から近寄つてはゐられない。ぐるりと遠廻す  
山岳部の小屋には別状がない。スレートの屋根、  
六枚硝子の窓、長庇の木一チ。元のまゝだ。然し  
どうだらう、小屋の目と鼻の先にはさつきの掘立  
小屋と、さつきの土方人足だ。いづれは道場とか  
寒会所とかゞ建つのだらう、圓面を持つた現場監  
督が部室の前の空地で晝寝してゐるのが見える。  
暇な大工が遠くから僕を見んでゐる。人相の悪い  
奴が遠くから僕を見んでゐる。部室自體に異狀が  
なくて木ツとした僕も、こう怪しげな労働者に見

編輯子一言

不幸とも海の犠牲となられた故宮川雄二郎君を失つて、我々は哀悼の意を禁じ得ません。それが殊に我々の第二の故郷である山での遭難で無いだけに、我々自身をも慰さめ効れないのでせう。此の會報を用ひて故人の想出を新たにする意図を以て原稿整理のつき次第、直ちに臨時号発行するつもりでりますから右欄承知置き願ひます。

てあらわれては部室に入ることが出来ない。御存知  
でもあらうが、扉の合鍵本木一チの鳴居に隠して  
あるのだから、僕がそれを取り出して鍵前を明け  
れば合鍵の在り場所を彼等に教へる様なものだ。  
とは言へ鍵無しではどうにも入れない、絶体絶命  
と学生諸君は毎日どうやら出入りしてゐるのだから  
うと考へて見たりした。然し坊角國立まで来てな  
つかしい部室に入らずに帰るのは残念だ。僕は途  
方に暮れて立ちすくんでゐたのだった。